

コ ー ス	口腔病理学・口腔病理学実習 (Oral Pathology Lecture & Lab class)		
学年・期・単位	第3学年・後期・2単位	科目担当責任者	槻木 恵一 (顎顔面診断科学講座病理学分野教授)
オフィスアワー	毎週火曜日17:30～ (第2研究棟5階病理学分野研究室)	メールアドレス	ktsukino@kdcnet.ac.jp
一般目標 (GIO)	病理学総論の知識に基づき歯科口腔疾患の病理学について理解を深める。さらに、病理病態学の知識を再確認するために Team-based learning (TBL) および顕微鏡実習を行い、種々の疾患の病理形態学的特長について理解する。		

講義ユニット	一般目標 (GIO)
1. 口腔非腫瘍性疾患概論	口腔に発生する病変のうち非腫瘍性疾患の概要を理解する。
2. 口腔粘膜疾患	口腔粘膜に発生する粘膜病変の特徴および病理組織像を理解する。
3. 唾液腺疾患	唾液腺に発生する非腫瘍性疾患の特徴および病理組織像を理解する。
4. 歯・顎・歯周組織疾患	口腔に発生する病変において最も発生頻度の高いう蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、歯周疾患、顎骨骨髓炎の特徴と病理学的所見を理解する。
5. 嚢胞性疾患	口腔領域に発生する嚢胞性疾患の特徴および病理組織像を理解する。
6. 歯科治療の病理	矯正治療・インプラント・抜歯創・再植の病理組織像を理解する。
7. 先進病理	最先端の口腔病理学を理解する。

教科書〈講義〉		
書名	著者名等	発行所
A スタンダード口腔病態病理学	槻木恵一、窪田展久・猿田樹理 他	学建書院

参考書〈講義〉		
書名	著者名等	発行所
スタンダード病理学	槻木恵一 他	学建書院
わかる病理組織像	槻木恵一	学建書院

評価法 (EV)
口腔病理学講義 (本試験75%中間試験25%) および実習 (実習総括試験40%・TBL60%) の合格基準はそれぞれ60%以上で、何れも合格したものに對して単位認定 (合格) とする。形式はマークシートを用いる。

授業計画〈講義〉						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1	9/5	論 口腔非腫瘍性疾患概	1. 非腫瘍性疾患の概略を説明できる。 2. 炎症細胞の役割を説明できる。 3. 炎症を分類できる。 4. 各種炎症の病理学的定義を説明できる。 5. 急性炎症と慢性炎症の病理学的違いを説明できる。 6. 過敏症を分類し、その代表的な病変の特徴を説明できる。 7. 自己免疫疾患をあげ、その特徴および発症機序を述べることができる。	パワーポイントで解説する。パワーポイントは配布資料として提供する。	槻木恵一	D-4-4)-①～⑥ 必14-A-d 総-(IV)-1-G、I
2	9/5	口腔粘膜疾患	1. 口腔粘膜の組織構造を説明できる。 2. 角化および白色病変を説明できる。 3. 口腔粘膜感染症を説明できる。 4. 口腔の潰瘍性病変を説明できる。	//	槻木恵一	F-2-4)-(2)-①⑨ F-2-4)-(3)-⑭⑮ D-2-3)-(1)-①② F-2-2)-①②
3	9/5	口腔粘膜疾患	1. 水疱性疾患を説明できる。 2. 全身疾患と関連する口腔粘膜疾患を説明できる。	//	槻木恵一	必14- B -h 総-(IV)-11-C 各IV-(I)-6
4	9/12	唾液腺疾患	1. 唾液腺の構造を説明できる。 2. 唾液腺の非腫瘍性疾患を分類し病理学的所見を説明できる。 3. 全身疾患と関連する唾液腺疾患を説明できる。	//	槻木恵一	F-2-4)-(5)-①～⑤ D-2-3)-(11)-③ F-2-2)-④⑤ 必14- B -m 総-(IV)-11-D 各IV-(III)-1
5	9/12	歯・顎・歯周組織疾患	歯・顎・歯周組織疾患の概要を説明できる。	//	槻木恵一	F-3-1) F-3-2) 必14-B-a 総-(IV)-11-B 各II-(I)-2-B
6	9/12	歯・顎・歯周組織疾患	1. う蝕の病因論を述べるができる。 2. う蝕を分類できる。 3. エナメル質う蝕の病理学的特徴を説明できる。 4. 象牙質う蝕の病理学的特徴を説明できる。 5. セメント質う蝕の病理学的特徴を説明できる。 6. う蝕の継発疾患について説明できる。	//	三代代志子	F-3-2) ① 必14-B-a 総-(IV)-11-B 各II-(I)-2-B
7	9/26	歯・顎・歯周組織疾患	1. 歯髄に発生する加齢的变化を説明できる。 2. 歯髄に発生する代謝障害の特徴を説明できる。 3. 歯髄に発生する進行性病変の特徴を説明できる。 4. 第3象牙質の病理学的特徴を説明できる。	//	三代代志子	F-3-2)-②③ F-3-1)-④ 必14-B-a 総-(IV)-11-B 各II-(I)-2-B
8	9/26	歯・顎・歯周組織疾患	1. 歯髄炎の原因を説明できる。 2. 歯髄炎を分類することができる。 3. 各種歯髄炎の病理学的特徴を説明できる。	//	三代代志子	F-3-2) ③ 必14-B-a 総-(IV)-11-B 各II-(I)-2-B
9	9/26	歯・顎・歯周組織疾患	1. 根尖性歯周炎の原因を説明できる。 2. 根尖性歯周炎を分類できる。 3. 各種根尖性歯周炎の病理学的特徴を説明できる。	//	槻木恵一	F-3-2)-③ F-3-1)-⑤ 必14-B-a 総-(IV)-11-B 各II-(II)-2-C
10	10/3	歯・顎・歯周組織疾患	1. 歯周組織を図示することができる。 2. 歯周病の原因を説明できる。 3. 歯周病を分類できる。 4. 各種歯肉炎の特徴と病理学的所見を説明できる。	//	槻木恵一	F-3-2)-④ F-3-1)-⑤ 必14-B-b 総-(IV)-11-B 各II-(III)-2
11	10/3	歯・顎・歯周組織疾患	1. 慢性歯周炎の病理学的特徴を説明できる。 2. 歯周炎の病理発生の経過を説明できる。 3. 各種歯周炎の特徴を説明できる。 4. 根尖性歯周炎との違いを説明できる。 5. 歯周炎と関連する全身疾患を説明できる。 6. 骨髄炎の概要を説明できる。	//	槻木恵一	F-2-4)-(2)-②、⑧ F-3-2)-④ F-3-1)-⑤ 必14-B-b 総-(IV)-11-B 各II-(III)-2
12	10/3	顎顔面外科疾患	1. 口腔領域の嚢胞の特徴を説明できる。 2. 非歯源性嚢胞の病理学的特徴を説明できる。	//	槻木恵一	F-2-4)-(3)-①④～⑥ 必14-B-i
13	10/17	顎顔面外科疾患	歯源性嚢胞の病理学的特徴を説明できる。	//	槻木恵一	総-(IV)-11-F 各IV-(I)-4
14	10/17	の 歯科治療	矯正治療・インプラント・抜歯創・再植の病理組織像を説明できる。	//	猿田樹理 槻木恵一	総-(IV)-11-J
15	10/17	先進病理	最先端の歯科口腔関連についての研究内容を説明できる。	//	槻木恵一 椎木直人 (非常勤講師) 佐藤允俊 (非常勤講師) 桜井良子 (非常勤講師)	各IV-(IV)-2

実習ユニット	一般目標 (GIO)
1. 循環障害・修復の病理学	循環障害および修復過程の病理学的変化について総論的知識を習得する。
2. 炎症の病理学	炎症時の病理学的変化について総論的理解を深め病理学的特徴を習得する。
3. 退行性病変・歯髄疾患の病理学	歯髄に発生する退行性病変および炎症性疾患の理解を深め病理学的特徴を習得する。
4. 口腔粘膜・歯周組織疾患の病理学	口腔粘膜および歯周組織に発生する疾患の理解を深め病理学的特徴を習得する。
5. 腫瘍の病理学	腫瘍の病理形態学的特徴の理解を深め、総論的・各論的知識を習得する。
6. 唾液腺疾患の病理学	唾液腺腫瘍の病理形態学的特徴の理解を深め、各論的知識を習得する。
7. 歯原性腫瘍の病理学	歯原性腫瘍の病理形態学的特徴の理解を深め、各論的知識を習得する。
8. 腫瘍類似疾患・嚢胞の病理学	顎骨・軟組織に発生する嚢胞性病変について病理学的特徴を習得する。
9. 歯硬組織疾患の病理学	う蝕をはじめとした歯硬組織疾患の病理学的特徴を習得する。
10. 総括	習熟度を試験により理解する。

教科書〈実習〉		
書名	著者名等	発行所
B わかる病理組織像	槻木恵一	学建書院

参考書〈実習〉		
書名	著者名等	発行所
スタンダード病理学	槻木恵一 等	学建書院
スタンダード口腔病態病理学	槻木恵一・窪田展久 等	学建書院

評価法 (EV)
口腔病理学講義（本試験75%中間テスト25%を含む）および実習（実習総括試験40%・TBL60%）の合格基準はそれぞれ60%以上で、何れも合格したのに対して単位認定（合格）とする。

授業計画 (実習)						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1・2・3	10/24	循環障害・修復の病理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動脈の構造を記述できる。 2. 静脈の構造を記述できる。 3. 毛細血管の構造を記述でき組織像を判別できる。 4. うっ血について記述できる。 5. 充血について記述できる。 6. 血栓の原因を記述できる。 7. 血栓の種類を記述できる。 8. 血栓の転帰を記述できる。 9. 血腫との違いを記述できる。 10. 血栓塞栓症について詳述できる。 11. 梗塞の種類を記述できる。 12. 梗塞の経過を記述できる。 13. 水腫の原因を記述できる。 14. 水腫の組織像を判別できる。 15. 血栓を判別できる (血栓を理解するため)。 16. 心筋梗塞を判別できる (梗塞を理解するため)。 17. 肉芽組織の定義を記述できる。 18. 肉芽組織の役割を記述できる。 19. 肉芽組織の構成細胞を記述できる。 20. 肉芽組織の形成から瘢痕治癒までの経過を論理的に記述できる。 21. わるい肉芽と良い肉芽の違いを記述できる。 22. 器質化について詳述できる。 23. 異物巨細胞について記述でき組織像を判別できる。 24. 一次治癒と二次治癒の違いを記述できる。 25. 再生・化生 (扁平上皮化生) について記述できる。 26. 血栓 (器質化の組織像を理解するため) を判別できる。 27. 心筋梗塞 (瘢痕治癒を理解するため) を判別できる。 28. 胃潰瘍 (創傷の治癒と潰瘍を理解するために) を判別できる。 	TBL により実習を行う。提示された症例をチームで解説を作成する。	槻木恵一	D-4-2)・3) 必14-A-h・I 総-(IV)-3・4
4・5・6	10/31	炎症の病理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 炎症の概念を詳述できる。 2. 漿液性炎について詳述できる。 3. 化膿性炎について詳述できる。 4. 膿瘍・蜂窩織炎・蓄膿の違いを記述できる。 5. 増殖性炎について詳述できる。 6. 肉芽腫性炎について詳述できる。 7. 5大兆候と病理学的変化を記述できる。 8. 急性と慢性の病理学的違いを詳述できる。 9. 好中球・リンパ球・形質細胞の形態が図示できる。 10. 各種炎症細胞の役割を記述できる。 11. 潰瘍とびらん病理組織像の違いを記述でき潰瘍を図示できる。 	//	槻木恵一	D-4-4) 必14-A-d・i 総-(IV)-5
7・8・9	11/7	退行性病変・歯髓疾患の病理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 象牙瘤の特徴を記述でき組織像を判別できる。 2. 退行性病変の概念を記述できる。 3. 変性の定義を記述できる。 4. 変性の種類と代表疾患を記述できる。 5. 壊死の種類を記述できる。 6. 結核 (乾酪壊死の理解) の特徴と組織像を判別できる。 7. 石灰変性の特徴を記述でき組織像を判別できる。 8. 歯髓壊死の特徴を記述でき組織像を判別できる。 9. 急性化膿性歯髓炎の特徴を記述できる。 10. 急性漿液性歯髓炎の特徴を記述できる。 11. 慢性増殖性歯髓炎の特徴を記述できる。 12. 慢性潰瘍性歯髓炎の特徴を記述できる。 	//	槻木恵一	D-4-1) F-3-2)-②③ F-3-1)-④ 必14-A-c・j・k 総-(IV)-2 総-(IV)-11-B 各II-(I)-2-B
10・11・12	11/14	患の病理学 口腔粘膜・歯周組織疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯根肉芽腫の特徴を記述でき組織像を判別できる。 2. 歯根嚢胞の特徴を記述でき組織像を判別できる。 3. 歯肉増殖症の特徴を記述でき組織像を判別できる。 4. 慢性歯周炎の特徴を記述できる。 5. 口腔粘膜の構造を説明できる。 6. 扁平苔癬の特徴を記述でき組織像を判別できる。 	//	槻木恵一	F-3-2)-③④⑤ F-2-4)-(2) F-3-1)-⑤ 必14-B-a・b 総-(IV)-11-B・C 各II-(II)-2-B・C 各IV-(I)-6
13・14・15	11/21	腫瘍の病理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍とはどのような病変か原因等を記述できる。 2. 発育形式を記述できる。 3. 転移様式を記述できる。 4. 再発の仕方を記述できる。 5. 発育速度・癒着・潰瘍形成・全身への影響を記述できる。 6. 細胞異型について記述でき、細胞像を判別できる。 7. 構造異型について記述でき、細胞像を判別できる。 8. 上皮性腫瘍を分類できる。 9. 非上皮性腫瘍を分類できる。 10. 混合性腫瘍を分類できる。 11. 上皮性異形成について記述でき、組織像を判別できる。 12. それぞれの定義と関連病変を記述できる。 13. 母組織・ウイルス腫瘍・実質・間質・TNM・過誤腫・悪液質・癌遺伝子・癌抑制遺伝子について記述できる。 14. 乳頭腫の特徴を記述でき組織像を判別できる。 15. 扁平上皮癌の特徴を記述でき組織像を判別できる。 16. 平滑筋腫の特徴を記述でき組織像を判別できる。 17. 骨肉腫の特徴を記述でき組織像を判別できる。 	//	槻木恵一	D-4-5 F-2-4)-(3) 必14-B-j 総(IV)-11-G 各(IV)-(I)-5

授業計画〈実習〉						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
16 ・ 17 ・ 18	11/28	唾液腺疾患の病理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 唾液腺腫瘍の特徴について詳述でき分類ができる。 2. 多形腺腫の特徴を記述でき組織像を判別できる。 3. ワーチン腫瘍の特徴を記述でき組織像を判別できる。 4. 腺球嚢胞癌の特徴を記述させ、組織像を判別できる。 5. 粘表皮癌の特徴を記述でき組織像を判別できる。 	TBLにより実習を行う。提示された症例をチームで解説を作成する。	槻木恵一	D-4-5 F-2-4)-(5) 必14-B- j 総 (IV)-11-G 各 (IV)-(III)-1
19 ・ 20 ・ 21	12/5	歯源性腫瘍の病理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯源性腫瘍の特徴について詳述でき分類ができる。 2. エナメル上皮腫の特徴を記述でき組織像を判別できる。 3. 角化嚢胞性歯源性腫瘍の特徴を記述でき組織像を判別できる。 4. 石灰化嚢胞性歯源性腫瘍の特徴を記述でき組織像を判別できる。 5. 歯牙腫の特徴を記述でき組織像を判別できる。 	//	槻木恵一	D-4-5 F-2-4)-(3) F-3-1- ① 必14-B- j 総 (IV)-11-G 各 (IV)- (I)-5-B
22 ・ 23 ・ 24	12/12	腫瘍類似疾患・嚢胞の病理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 線維性異形成症の特徴を記述でき組織像を判別できる。 2. エプーリスの特徴を記述でき組織像を判別できる。 3. 義歯性線維腫の特徴を記述でき組織像を判別できる。 4. 嚢胞の特徴を記述でき組織像を判別できる。 	//	槻木恵一	D-4-5 F-2-4)-(3) 必14-B- j
25 ・ 26 ・ 27	12/19	歯硬組織疾患の病理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. う蝕の特徴を判別できる。 2. 歯髓疾患の特徴を判別できる。 3. 歯周病の特徴を判別できる。 	標本の顕微鏡を用いてスケッチする。	椎木直人 (非常勤講師) 他病理学分野 教員全員	F-3-2)- ① F-3-1)- ③ 必14- B -a 総 -(IV)-11-B 各 III -(I)
28 ・ 29 ・ 30	12/22 (調整期間) 1・2・3限	総括	実習内容を系統的に記述できる。	試験を行う。	病理学分野教員全員	